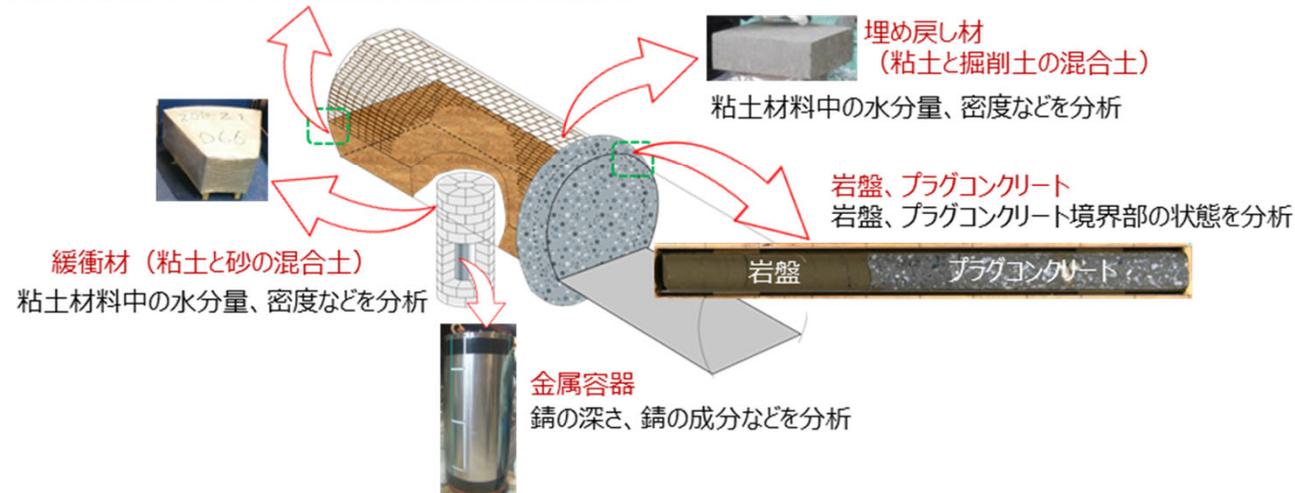


【HIP Task Cの概要】

タスクCの目的は、人工バリア性能確認試験の解体試験を実施することで、設置センサーのみでは把握できないより詳細な飽和度や乾燥密度などの分布や各材料界面（粘土、金属、コンクリート、岩盤）の状態変化などの連成現象に関わるデータを取得し、現象理解と数値解析技術の検証を行うことです。

タスクCでは既設センサーによるデータ計測の継続、解体試験計画の策定、解体試験の実施および解体試験のデータを使用した解析コードの検証を計画しています。フェーズ1の活動内容は、解体試験計画の策定と連成解析コードの準備など主にフェーズ2に向けた準備です。解体試験計画の策定においては、解体試験で取得すべき情報や参加機関の要望などについて議論・集約し解体方法や分析項目、サンプリング位置などの計画案を提示しました。現在は、フェーズ2での原位置試験を対象とした連成解析の実施に向けて、参加機関が保有するシミュレーション技術の特徴を共有するとともに個別の室内試験結果を使用したシミュレーションを進めています。今後は、2026年2月から解体試験に着手し、人工バリア等の状態をより詳細に把握するとともに、シミュレーション技術の更なる高度化と検証を進めます。

埋め戻し材、吹付コンクリート、岩盤
埋め戻し材、吹付コンクリート、岩盤境界部の状態を分析



【HIPに関するプレスリリース】

幌延深地層研究センタープレスリリース 令和7年1月7日

タイトル：幌延国際共同プロジェクト」のフェーズ1報告書を公表－高レベル放射性廃棄物地層処分技術の信頼性向上と人材育成への国際貢献－

幌延深地層研究センターHP

(https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/press/r7/press_1107.html)

図4 人工バリアシステム解体試験計画のイメージ図